

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2019年7月1日 190号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

水



大地を潤すパラグアイ川の流れ

Streams of Life-Giving Water of the Blessed Land

悠久の流れ、生命の水、緑の福地

生きとし生けるものにとつて、必要不可欠な光と空気と水と愛。今回はその一つ、レダの水を紹介します。いくつもの側面を持つレダプロジェクト。農作と牧畜に必要な農業用水、養殖に必要な水産用水、人間に必要な飲料水と生活用水が主な用途ですが、食品加工、菜園、植樹園、果樹園、花壇、土地保全、自動車と機械類などにも水が使われます。また将来医療施設がでければ、純粹な水が多く求められるでしょう。

レダ基地で私たちが使う水は、すべてパラグアイ川から得ています。川岸近くにある「日陽園」と書かれ大きな給水塔には、川から汲み上げた茶色の濁水が一時に蓄えられています。また本流や支流から直接・間接に得る水と、天からの雨水の量は計り知れません。

給水塔の水の一部は、浄水施設で沈殿・濾過・殺菌処理等を行つて、無色透明、安全な水道水となります。定期貨客船アキダバンがレダに入港すると、ポリタンクを抱えた人々が競つて川岸の蛇口に駆け付け、水を汲む光景が見られます。水代は取りませんが、水質の安定した水道水を常に十分に供給するのは、なかなか手間のかかる作業です。それでも、内陸乾燥地のフライデルフィアやロマ・プラタの町が、貴重な雨水を無駄なく貯めることで成り立つてゐることに比べると、川沿いのレダは大変に恵まれてゐると言えます。

自動車や機械のエンジンには、蒸留水が必要ですが、その必要量は限定的。農業、水産をはじめ、ほとんどの用途には、川の水がそのまま使われます。この濁つた水も雨水も、大自然にあつて動植物の生命を育む力は偉大です。その意味では、すべての自然物は「パンタナール精神」の良い教材であると言えるでしょう。

広大な日陽園の福地を潤す生命の水は、雨季限定期雨水を別とすれば、すべてパラグアイ川とその支流が源泉です。パンタナール湿原の世界自然遺産登録は、国際社会がこの貴重な河川を悠久の流れとして保全する意志を表明したものと見ることもできるでしょう。

古代の世界四大文明圏は、大きな河川沿いに発祥しました。水の恩恵です。ところが現代では「水を制する者は、世界を制す」と言われます。この言葉が誤った方向に現実化しないよう、必ずしも無尽蔵ではない資源について、考えてみようではありませんか。



貨客船アキダバン船内で魚肉製品を販売。5月17日



淡水エイを釣り上げた水田君。

生まれた豚の赤ちゃんと瀬戸本君。

浄水場で水つくりをする上山勝吾郎君。

五月十日にレダで行つたパター放流式の詳細な報告が、現地で準備に奔流した佐野道准氏から届きました。

今年の放流式は、地元の人々がよりレダを理解し、自然保護の意識を高める行事にしようと、教育も兼ねてオリンボの学生たちを招くことになった。今年は四月～五月に異常な豪雨が続き、道路が全く使えない。チャコ地方のパラトドという町は、平年なら水不足に悩まされるのに、今年は水に浸かり、屋内でも長靴が必要という異常事態。多くの家庭が別の町に仮住まいを余儀なくされた。トロパンパやマリア・アウシリアドーラなど、内陸部の村は食料や燃料の補給手段が断たれ、州政府が緊急に飛行機で食料品や日用品を運んだ。それゆえ交通手段は船に頼るしかなかったのだが、一番安く確実な方法が定期船の利用なのである。

本来は五月三日（金）を予定したが、その週も大雨が降つて、レダ基地が過度にぬかるむ状態となり、水曜日の朝、急遽翌週に延期した。せつかく生徒たちの長年の夢がかなつてレダに来ると、いうのに、最悪の場合は放流式も出来なくなる心配な状況。だが先方も事情が分るので、快く納得してくれた。

次の週も天候が心配されたが、何とか雨を避けられそうでもあった。九日の朝、オリンボで一行が定期船（アキダバン）に乗り、夜九時か十時頃のレダ到着を想定していた。しかし政府がこの船を使って様々な町や村に緊急援助品を届けたため、運行が大幅に遅れ、オリンボ出発が午後二時となつた。

深夜二時、ようやく船がレダに到着。皆明るく元気に船から降りてきた。生徒が31人（男子13人、女子18人）、教師は校長先生を含む男性一人、お母さん

が一人付いて総勢34人。先生方は講師室に、他の人々は男女別二部屋に泊まつてもらつた。

翌日は七時から朝食。八時に大講堂に集合。まず中田氏の挨拶、次いで岩澤氏の挨拶。そして私がパワーポイントでレダのプロジェクトの紹介をした。レダの紹介は、まず原野の開拓から始まって、現在の状況があること、文先生御夫妻がバラグアイ、パンタナールを深く愛しておられること（自叙伝などを引用）。これは彼らに自分の生まれた地に誇りを持つてもらうために強調した。そしてレダプロジェクトは、地域振興と環境保護を常に念頭に置いて進めていること。今まで先住民や地域コミュニティに奉仕してきたこと。これは文先生御夫妻の「為に生きる」オリンボの市会議員でもあり、カトリックの篤実な信者である校長先生は特に哲学の実践であることを訴えた。

その後九時半頃、全員で養殖池に行つた。今回は上山貞和氏の企画で、彼らに魚をすくつてもらい、それを川に放流するという方式を取つた。初めて池に入るのでは、最初は少し抵抗があつた。青年たちも、労働者たちに続いて元気よく池に入つて行つた。幅20mぐらいの網を1m間隔で持ち、徐々に対岸に寄せてくる。そして池の対岸まで魚を追い込んで網を引き寄せると、数多くの魚がひしめき合つて跳ねる。これを叫びながら、池に入つて行つた。池の斜面で滑つて転ぶ者、魚が跳ねて顔が泥だらけの者、シャツも（次面に続く）



師匠の日に青年たちから先輩たちにケーキのプレゼント。5月15日



引き続きアキダバン船内で魚肉製品を販売。5月31日



カピバラの家の世話は豊村氏が担当。5月15日



卵8個を抱く七面鳥。5月中旬



食品管理をする北中氏。5月中旬

ズボンも泥んこびしょ濡れ。こうして全身で遊ぶことは子供の頃以来だろう。魚を入れた水槽をトラックで川岸に運び、バケツですくつて川に放流した。もう水に入ることを恐れる者はいない。放った魚は約一〇〇匹と思われる。その後泥まみれの服装で全員記念撮影。何人かは泥んこの服装で先生に抱きついていた。この時ばかりは先生も何も言えない。皆、これは記念すべき生涯初めての体験だと言っていた。

● その後シャワーを浴び、着替えて昼食。着替えを持ってきてないという人がいて、レダのスタッフが自分の服をあげている光景もあった。（事前に池に入るとは伝えてあつたけれど。）

● 昼食のメインは恒例の牛のアサド。また小橋さんが造ったパクーやピラニアの魚肉製品が各テーブルに置かれた。食事中、小橋さんに少し説明をしてもらったが、皆は珍しそうに味見をしていた。食事が一段落した時、オリンポの青年たちが予め準備してきた歌を二曲歌つてくれた。校長先生からは感謝のことばが述べられた。次にレダの青年五人が踊りながら歌つてくれた。彼らはスタッフとして走り回る中（放流の準備、清掃、カメラ、食事準備など）こういうエンターテインメントも準備してくれ、まさに大車輪の活躍だった。

● 昼食後、二時半から簡単な施設巡り。まずエビ養殖の研究室。鮮文大生がパワーポイントで養殖を紹介してくれた。そして小橋さんの工房。ここはいつも人気スポット。そして養殖池へ行き、飼料を撒いてもらつた。最後にタロイモ畑。吉村敏明氏がきれいに整備した、一番大きな畑が映えていた。

● 午後三時半からの自由時間は、ほとんど全員がプールへ。六時の夕食の直

前までプールを楽しんでいた。オリンポにはもちろんプールはない。川での泳ぎは危ないので、彼らには泳ぐ機会があまりない。こういうきれいなプールで泳ぐことは彼らにとつて夢の中の夢。最高の思い出になつたようだ。

● 夕方七時過ぎ、アキダバンが遅れて到着した。皆紅潮した顔、興奮した様子で、各人思うがままにしゃべりながら船に乗り込む。

● 今回、オリンポの青年たちを招待したことはとてもよかつたと思う。まず校長先生をはじめ、先生、父兄にレダプロジェクトの内容を理解してもらえたことは非常に有意義だった。今後地元の各分野の人を招待して啓発したいと思う。生徒たちにとつては、彼ら自身が言つていたように、生涯唯一の体験であつたかもしれない。辺境の地に住む人たちにもリゾート地に行つたような体験をさせてあげることができた。

● 池に入つて魚を捕獲し、童心に帰り、自分たちがその住人であるという誇りを、多少とも感じてもらえた。またレダが様々なプロジェクトを通してこの地域の復興を目指していることなどを理解してもらつた。こうして彼らのレダ初訪が有意義なものになつたと思う。

● 今回の放流式は、少ない人数で実行されたので、上山氏にかかる負担が大きかつたと思う。そして各人が分担した役割を死守してくれた。このことに深く感謝したい。特にレダの青年たちがどんなことでも嫌な顔ひとつせず、二重、三重に責任をこなしてくれたこと

第二十回一日特別研修会ご案内

夏のパンタナール一日特別研修会（ワンディセミナー）を、左記の要領で開催します。会場は、先回と同じセンター棟四階、研修室は四〇一室です。

日時…七月二十七日（土）十時受付、五時終了予定

会場…国立オリンピック記念青少年総合センター、

センター棟四階（小田急線参宮橋駅徒歩七分、または渋谷駅西口40番乗場よりバス、代々木五丁目下車）

参加費…二〇〇〇円（昼食を含む）当日受付にて

参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、下記の当法人事務局宛て、七月二十三日までにお申しこみください。（応募用紙の請求も同事務局へ）

共催…一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

●「レバレンンド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦講師
●「レダと日本における植樹活動」講師…高津啓洋NPO法人 地球の緑を守る会 代表理事
●「レダと南北米福地開発協会について」講師…中田欣宏代表理事
●「レダ開拓二十周年」講師…中田欣宏代表理事
●「レポーター…レダ基地から質疑応答、感想発表ほか、親しく懇談する時間があります。親最近帰国した青年ボランティア、基地スタッフなど。

プログラム（予定）

●「レバレンンド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦当法人理事
●「レダと南北米福地開発協会について」講師…中田欣宏当法人代表理事
●「レダ開拓二十周年」講師…中田欣宏当法人代表理事
●「レボーター…レダ基地から質疑応答、感想発表ほか、親しく懇談する時間があります。親最近帰国した青年ボランティア、基地スタッフなど。



第18回奉仕隊の活動。

第十九回青年奉仕隊へ、支援のお願い

本年派遣する第十九回国際協力青年奉仕隊の募集は、去る五月月末日に締め切りました。応募してくれた皆様、ありがとうございました。選考の結果については、個人ごとに連絡いたします。

● 今回の派遣は、八月二十二日から九月十五日までの十五日間を予定しています。主な活動は、パラグアイ共和国チャコ地方の学校を中心としたコミュニケーションでの奉仕活動、アスンシオンでの機関訪問などです。

● 奉仕隊プロジェクトを実行する上で重要な段取りとして、現地で利用する交通機関の手配、作業資材の調達、宿泊所と食事の用意、そして奉仕活動を行うコミュニケーションの指導者たちとの打合せ等があります。長期的な視野で、現地住民の現在と未来にとって真に益となり得る奉仕活動を行うために、今現地スタッフが慎重に準備作業を進めています。

● 活動の中心は学校となります。子供たちと共に汗を流し、心を込めてものを作り、堅牢・衛生的・かつ美しく仕上げ、またスポーツや音楽、ダンス、遊びなどを通じて交流することで、子供たちに勉学の意欲と希望とが育まれることを、私たちはこれまでに見てきました。振り返ると、彼らの村に植樹するとともに、彼らの心に愛を植えて来たことを、実感します。

● 奉仕隊員は若い日に、国、文化、環境等の境界を越えて行きます。またチームワークの中で、自己の内的な壁を越える大小の挑戦に臨み、自身の潜在力や深い情緒に目覚める隊員を、私たちは多く見てきました。未来を担う若者にとって、将来の眞の目標が見えて來ることも、大きな収穫になるでしょう。

● 今年も奉仕隊派遣のためのご支援をお願いいたします。ご支援の送り先は、下記青文字のゆうちょ銀行

一般社団法人南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com
ホームページ: <https://asd-nsa.com>
Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員種別

◆会員一口1000円／月

◆特別会員一口1万円／月

◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

● 入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページから入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局： office@asd-nsa.com へお願いします。